

「第 27 回 武庫川河川敷 お掃除会」

仁川合流点

主催：武庫川流域圏ネットワーク

<http://muko.jimdo.com/>

- ◆重点1◆「プラスチックごみ」～海洋汚染・海の生き物の被害も深刻～
- ◆重点2◆「特定外来生物オオキンケイギク」～裏面参照～

日時：2020年10月25日(日)

9:30～12:00

降水確率：午前中 50%以上は中止

雨天予備日：11月1日(日)

集合：仁川国際霊園 南の河川敷

- ・阪急「仁川駅」川沿い下流へ、徒歩 20 分
 - ・阪急バス「仁川口橋」、「田近野」徒歩 5 分
- 仁川駅前 9:10 発が便利

(武庫川ネット のぼり目印)



【© OpenStreetMap contributors】



◆ コロナ対策 ◆

体温確認し体調不良の場合は、参加ご遠慮をお願いします

- 持参品：マスク、軍手、長靴歓迎、小スコップ、水筒
- 服装：野外作業に適した長そで・長ズボン・帽子を推奨
- 申込み：「武庫川流域圏ネットワーク事務局」宛
住所、氏名、Tel 記入 10月24日まで
mail：mukogawaken.net@gmail.com
件名＝「お掃除参加」

武庫川流域圏ネットワークは
「地域環境保全功労者」として
環境大臣から表彰を受けました
(2020年7月3日)
皆さまのご支援に感謝します

次回：2021年3月14日(日)

電話：090-7878-4307 (山本)
090-1718-2029 (白神)



環境学習都市にしのみや・
パートナーシッププログラム

コープこうべ環境基金 助成事業

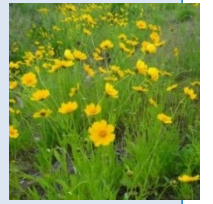
【下記の後援および協力は、申請中または予定の段階です】

後援：兵庫県 阪神南県民センター/西宮市/宝塚市

協力：兵庫県 西宮土木事務所/環境都市宝塚推進市民会議/ (株)ヤマサ環境エンジニアリング

特定外来植物オオキンケイギクの駆除について

オオキンケイギクと駆除：北米原産で5～7月に黄色い花をつける。繁殖力が強く、生態系に悪影響を及ぼす。2006年に特定外来生物に指定。栽培・運搬・販売は禁止。
2015年1月、法律の緩和措置により、市民による駆除が容易になった。多年草でもあり完全な駆除は困難だが、根からの抜き取りが一番効果的。抜き取ったオオキンケイギクは、密閉・焼却が必要。



特定外来生物（外来生物法より）

生態系、ヒトの身体・生命、農林水産業への被害を防止するために、防除の対象と指定された動植物 148 種。（2018年4月1日現在） 武庫川ではオオキンケイギク、ミズヒマワリ、ヌートリア、ブラックバス、ブルーギル、セアカゴケグモ、など。

武庫川流域圏ネットのオオキンケイギク問題への取り組み履歴（1～19）

No	年月日	株数/Kg	お掃除会	参加者	注
1	2014/06/01	観察のみ	8回	130名	
2	2015/03/08	駆除初回 3100株	10回	130名	
3	2015/06/14	97Kg	11回	100名	
4	2015/09/27	1500株	駆除会	50名	
5	2015/11/15	150kg	12回	30名	
6	2016/03/13	約70袋	13回	160名	
7	2016/05/29	2000株/217kg	14回	120名	
8	2016/10/29	4500株/89kg	15回	60名	
9	2017/03/12	7000株/90kg	16回	80名	
10	2017/05/28	240kg	17回	80名	
11	2017/11/05	44kg	18回	40名	
12	2018/03/11	57kg	19回	35名	
13	2018/05/27	153kg	20回	80名	
14	2018/10/28	70kg	21回	25名	
15	2019/03/17	オオキンケイギク中止	22回	20名	後半降雨中止
16	2019/05/12	132kg	23回	70名	
17	2019/10/27	88kg	24回	50名	
18	2020/03/08	コロナ中止	25回	—	
19	2020/09/25	雨天中止	26回	—	
20	2020/10/25	kg	27回	名	
21	2021/03/14	kg	28回	名	

2014年(平成26年)6月2日 月曜日

黄色い侵略者 拡散中

西宮市の武庫川河川敷で1日、地元の中学生や企業家の有志ら約130人が近年、急速に繁殖している特定外来生物「オオキンケイギク」を観察した。7月にかけて黄色い花を咲かせるが、在来植物の生育場所を奪い、周辺環境を一変させてしまうため、栽培や移動が禁止されているため。

環境保護などに取り組む市民らの連絡組織「武庫川流域圏ネット」の呼びかけで参加者は尼崎、西宮市の下流域ごみ拾いをし、川合の合流点で観察した。オオキンケイギクは北米原産。病害に強、かつて道路や堤防の強化や緑化に使われ、全国的に野生化した。在来の生態系を脅かすため、2006年に特定外来生物に指定されている。

同ネットワークによると、武庫川流域では家庭で栽培された種子が飛ぶなどして広がり、昔々見られたカワラサイコなどを追い越している。上田宏・副代表(右)は「いま開花期を迎えているが、川合合流点では昨年の倍以上咲いている。放つと来年はさらに倍増するだろう。早く対策を取る必要がある」と話していた。(中村尚徳)

オオキンケイギク(手前)の説明を聞く中学生ら＝西高市



【武庫川流域圏ネットワーク 第27回お掃除会 2020年10月25日】